

# 中小企業景況調査結果

平成30年度 第Ⅱ期（平成30年7月～9月） …… 実績  
平成30年度 第Ⅲ期（平成30年10月～12月） …… 見通し

平成30年10月



福島商工会議所

# 1. 調査要綱

## (1) 景況調査について

本調査は、福島商工会議所管内の景気動向を把握するために、会員事業所を通して四半期毎の景況をアンケートの方法によって調査し、集計値をDIで表示したものである。

※DIとは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値

## (2) 今回の調査対象期間

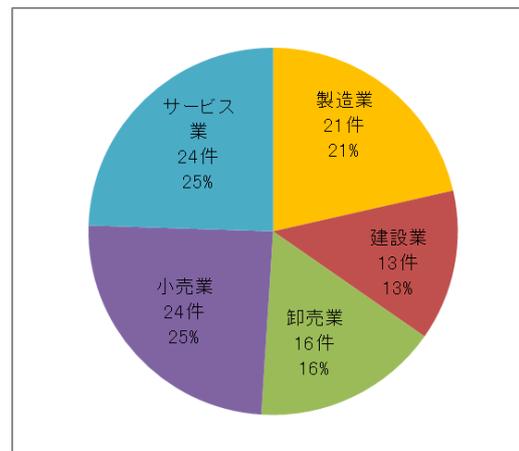
平成30年度 第Ⅱ期 (平成30年7月～9月)

第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期			第Ⅳ期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
今回実績						来期見通し					

## (3) 調査件数

福島市内会員事業所 有効回答事業所数 98件 (回答率 93.3%)

業種	有効回答事業所数	割合
製造業	21件	21.4%
建設業	13件	13.3%
卸売業	16件	16.3%
小売業	24件	24.5%
サービス業	24件	24.5%
合計	98件	100.0%



## (4) 調査内容

調査項目	比較方法	比較期間
売上	(前期比)	前期(平成30年4月～6月) ⇔ 今期(平成30年7月～9月)
業況	(前期比)	前期(平成30年4月～6月) ⇔ 今期(平成30年7月～9月)
	(今期)	今期(平成30年7月～9月)
採算	(前年同期比)	前年同期(平成29年7月～9月) ⇔ 今期(平成30年7月～9月)
設備投資	(実施した割合)	今期(平成30年7月～9月)の実施有無と件数
従業員	(過剰・不足)	今期(平成30年7月～9月)の過不足

## 2. 詳 細

### 景況感概要

今回の調査結果については、来期予測の業況、採算において、ややマイナス幅の減少が見られるものの、売上や前期比及び今期の業況においてはマイナス幅が増加しており、管内は依然として先行きが見通せない状況が続いている。

今期の設備投資については、前回実施した割合と同程度で推移しているものの、来期の予測では減少する見込みである。従業員については、依然として不足の状態が続いている。

直面する経営の問題点としては、需要停滞の常態化、慢性的な人手不足、原材料価格・仕入単価の上昇といった深刻な課題が挙げられており、さらに小売業においては、店舗の狭隘・老朽化が表面化していることなどから、管内の中小企業の経営環境は依然として厳しい状況にあるものと考えられる。

(結果要約表)

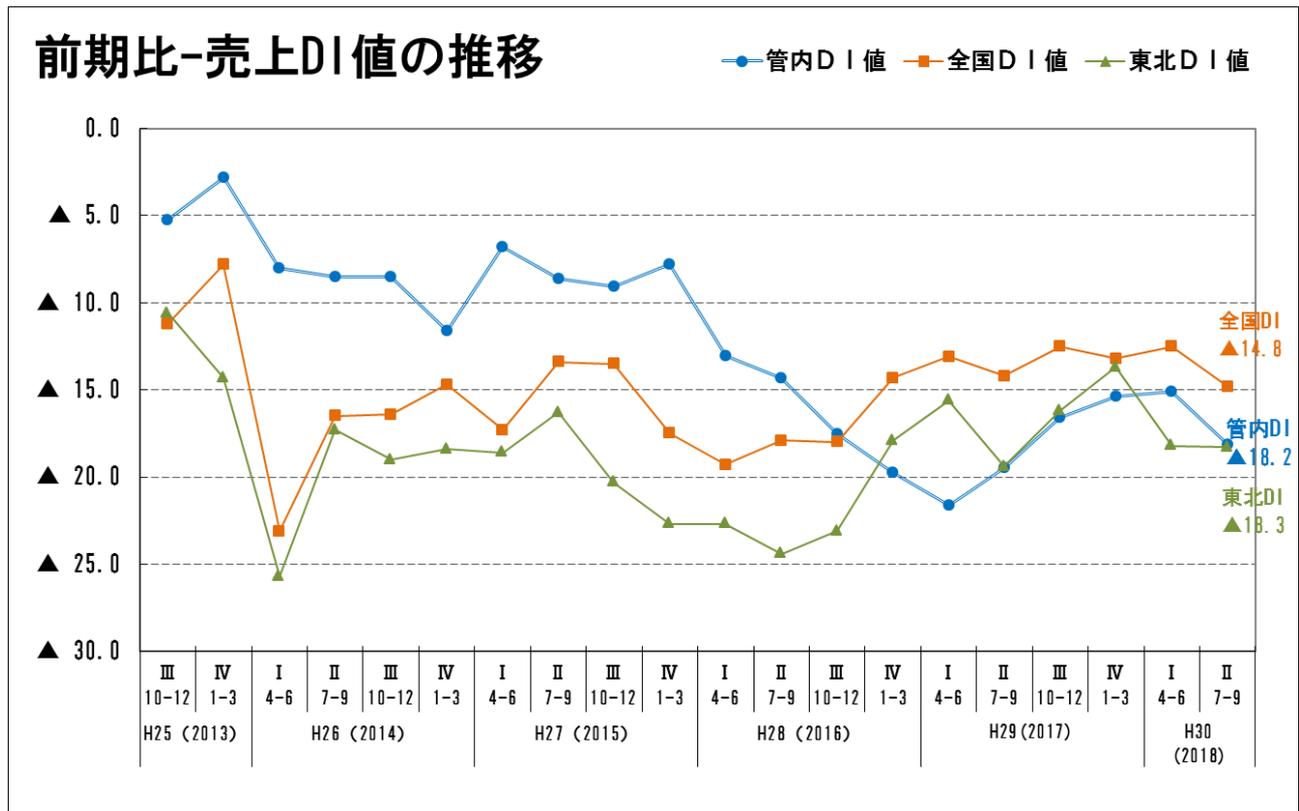
調査項目	比較方法	D I 値/割合 (前回D I 値)	状況
売 上	(前期比)	▲ 18.2 (▲ 15.1)	・ 前期比 3.1 ポイント減少 ↓
業 況	(前期比)	▲ 15.4 (▲ 14.9)	・ 前期比 0.5 ポイント減少 ↓
	(今 期)	▲ 29.8 (▲ 28.2)	・ 前期比 1.6 ポイント減少 ↓
	(来期予測)	▲ 22.5 (▲ 24.9)	・ 前期比 2.4 ポイント増加 ↑
採 算	(前年同期比)	▲31.4 (▲32.1)	・ 前期比 0.7 ポイント増加 ↑
	(来期予測)	▲29.4 (▲31.7)	・ 前期比 2.3 ポイント増加 ↑
設備投資	(実施した割合)	28.9% (29.0%)	・ 前期から 0.1 ポイント減少 ↓
従 業 員	(過 剰)	3.1% (5.9%)	・ 前期から 2.8 ポイント減少 ↓
	(不 足)	36.7% (32.7%)	・ 前期から 4.0 ポイント増加 ↑

## 2-1. 前期比-売上DI値の推移

- 全国・管内では、マイナス幅が増
- 東北では、横ばいで推移

※売上DIは「増加」企業の割合から「減少」企業の割合を引いた値

調査期間	H28年度		H29年度				H30年度		前期比増減
	Ⅲ 10-12月	Ⅳ 1-3月	Ⅰ 4-6月	Ⅱ 7-9月	Ⅲ 10-12月	Ⅳ 1-3月	Ⅰ 4-6月	Ⅱ 7-9月	
全国DI値	▲18.0	▲14.3	▲13.1	▲14.2	▲12.5	▲13.2	▲12.5	▲14.8	▲2.3
東北DI値	▲23.1	▲17.9	▲15.6	▲19.4	▲16.2	▲13.7	▲18.2	▲18.3	▲0.1
管内DI値	▲17.5	▲19.7	▲21.6	▲19.5	▲16.6	▲15.4	▲15.1	▲18.2	▲3.1



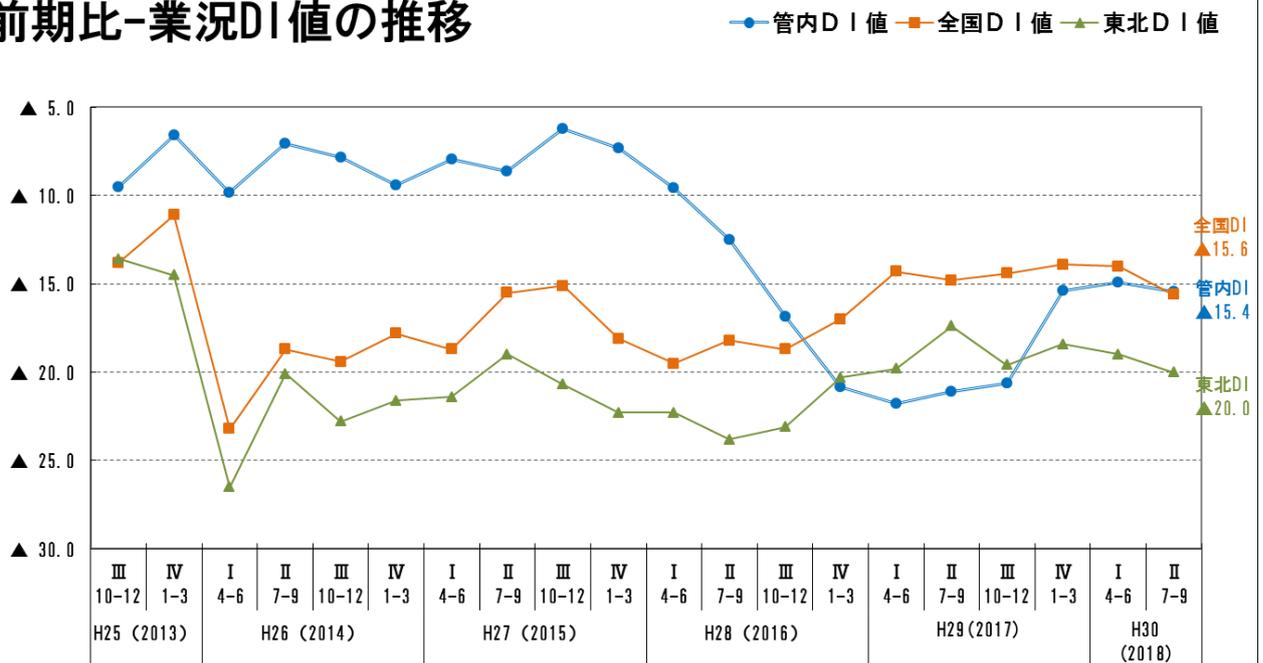
## 2-2. 前期比-業況(自社)DI値の推移

■全国・東北・管内において、マイナス幅がやや増加

※業況DIは景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値

調査期間	H28年度		H29年度				H30年度		前期比 増減
	Ⅲ 10-12月	Ⅳ 1-3月	Ⅰ 4-6月	Ⅱ 7-9月	Ⅲ 10-12月	Ⅳ 1-3月	Ⅰ 4-6月	Ⅱ 7-9月	
全国DI値	▲18.7	▲17.0	▲14.3	▲14.8	▲14.4	▲13.9	▲14.0	▲15.6	▲1.6
東北DI値	▲23.1	▲20.3	▲19.8	▲17.4	▲19.6	▲18.4	▲19.0	▲20.0	▲1.0
管内DI値	▲16.8	▲20.8	▲21.8	▲21.1	▲20.6	▲15.4	▲14.9	▲15.4	▲0.5

前期比-業況DI値の推移



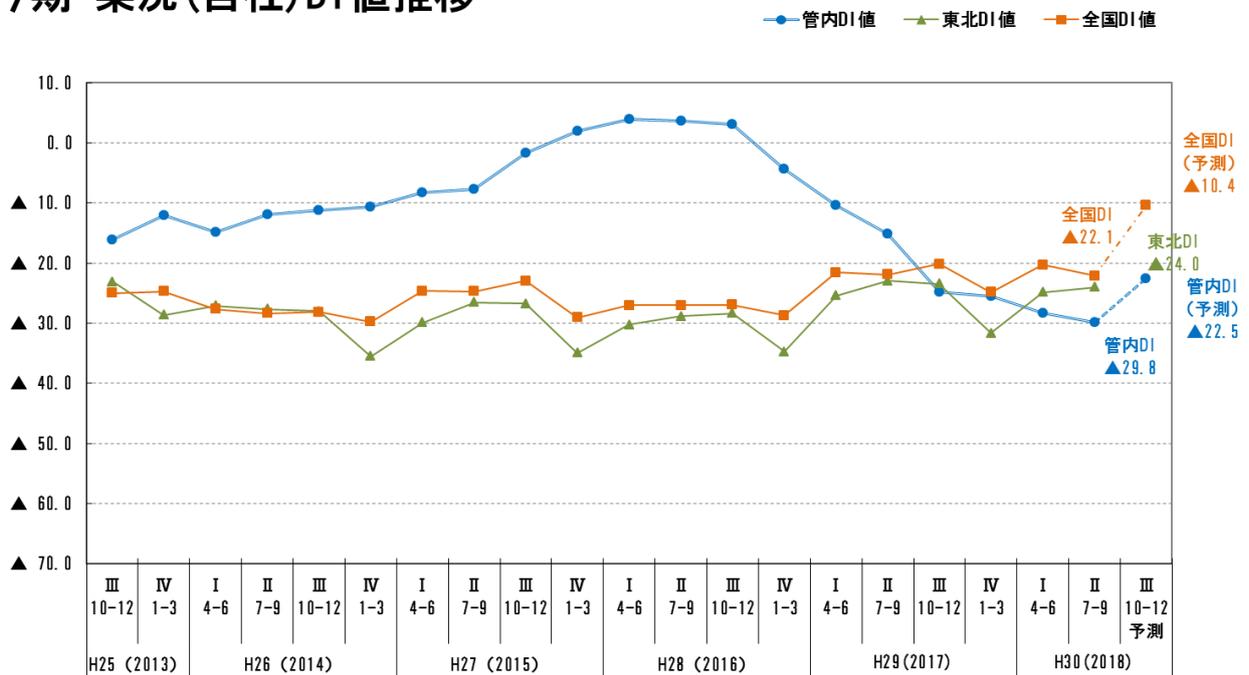
## 2-3. 今期-業況(自社)DI値の推移

- 全国・管内では、マイナス幅が増
- 東北では、マイナス幅がやや減
- 全国・管内では、来期予測は改善へ

※業況DIは景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値

調査期間	H28 年度		H29 年度				H30 年度		
	Ⅲ 10-12 月	Ⅳ 1-3 月	Ⅰ 4-6 月	Ⅱ 7-9 月	Ⅲ 10-12 月	Ⅳ 1-3 月	Ⅰ 4-6 月	Ⅱ 7-9 月	Ⅲ 10-12 月 (予測)
全国DI値	▲26.9	▲28.7	▲21.5	▲21.9	▲20.1	▲24.8	▲20.3	▲22.1	▲10.4
東北DI値	▲28.3	▲34.7	▲25.4	▲22.9	▲23.4	▲31.6	▲24.8	▲24.0	—
管内DI値	3.1	▲4.4	▲10.3	▲15.1	▲24.7	▲25.5	▲28.2	▲29.8	▲22.5

### 今期-業況(自社)DI値推移

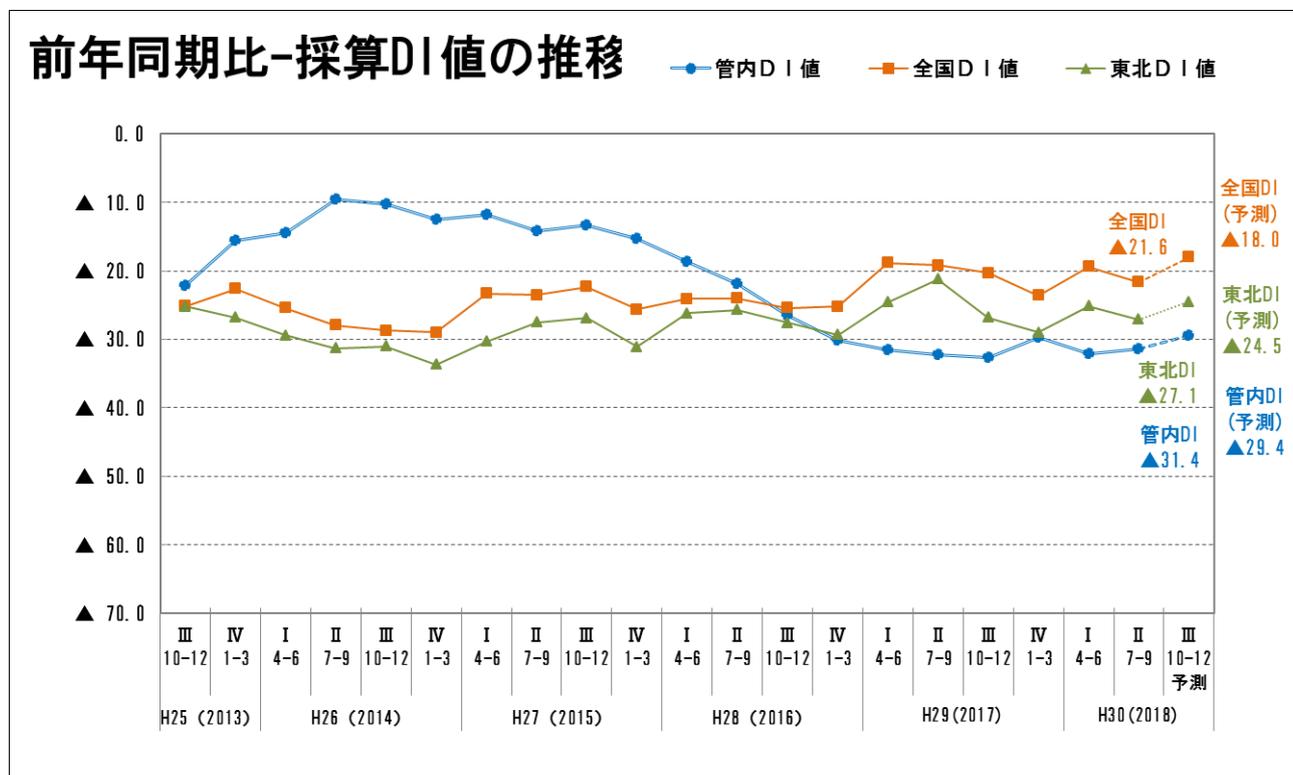


## 2-4.前年同期比-採算(経常利益)DI値の推移

- 管内は、マイナス幅がやや減  
全国・東北では、マイナス幅が増
- 管内の来期予測は、マイナス幅が減  
(全国・東北でも、マイナス幅が減の予測)

※採算DIは、「黒字」企業の割合から「赤字」企業の割合を引いた値

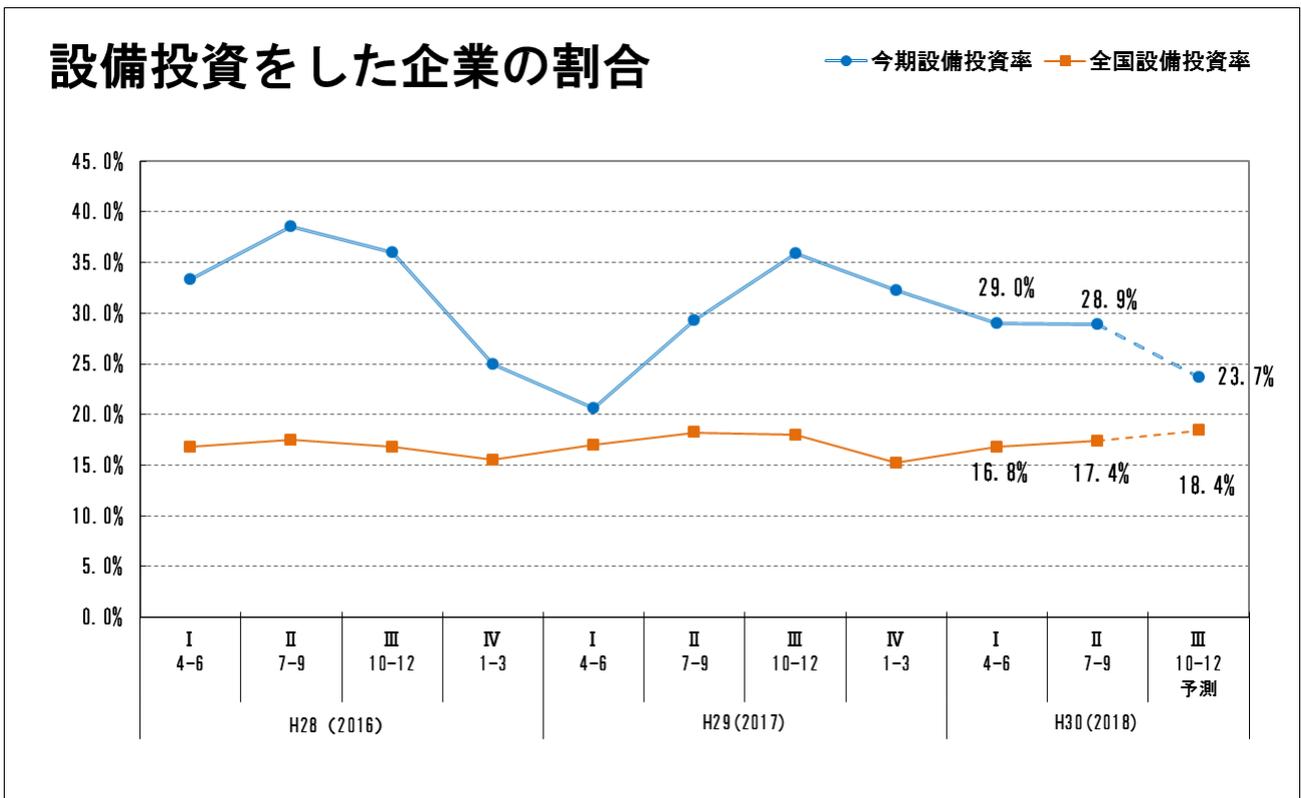
調査期間	H28 年度		H29 年度				H30 年度		
	Ⅲ 10-12 月	Ⅳ 1-3 月	Ⅰ 4-6 月	Ⅱ 7-9 月	Ⅲ 10-12 月	Ⅳ 1-3 月	Ⅰ 4-6 月	Ⅱ 7-9 月	Ⅲ 10-12 月 (予測)
全国DI値	▲25.4	▲25.2	▲18.8	▲19.2	▲20.3	▲23.6	▲19.4	▲21.6	▲18.0
東北DI値	▲27.6	▲29.3	▲24.6	▲21.2	▲26.8	▲29.0	▲25.1	▲27.1	▲24.5
管内DI値	▲26.5	▲30.1	▲31.5	▲32.3	▲32.6	▲29.7	▲32.1	▲31.4	▲29.4



# 3. その他

## 3-1. 設備投資

- 管内で設備投資を実施した企業割合は、(29.0%→) 28.9%で横ばいで推移
- 来期の設備投資予定は、減少する見込み



### ※設備投資内訳(今期・来期)

- 今期設備投資を実施した企業の主な各投資項目を実績ベースで見ると「車両・運搬具」が14件、「各種設備」が11件、「OA機器」が8件でその他をあわせた合計は49件となった。(前期 43件)
- 来期の設備投資見込みは、「車両・運搬具」、「建物・店舗」、「各種設備」、「OA機器」への投資予定が多く、合計37件が見込まれている。

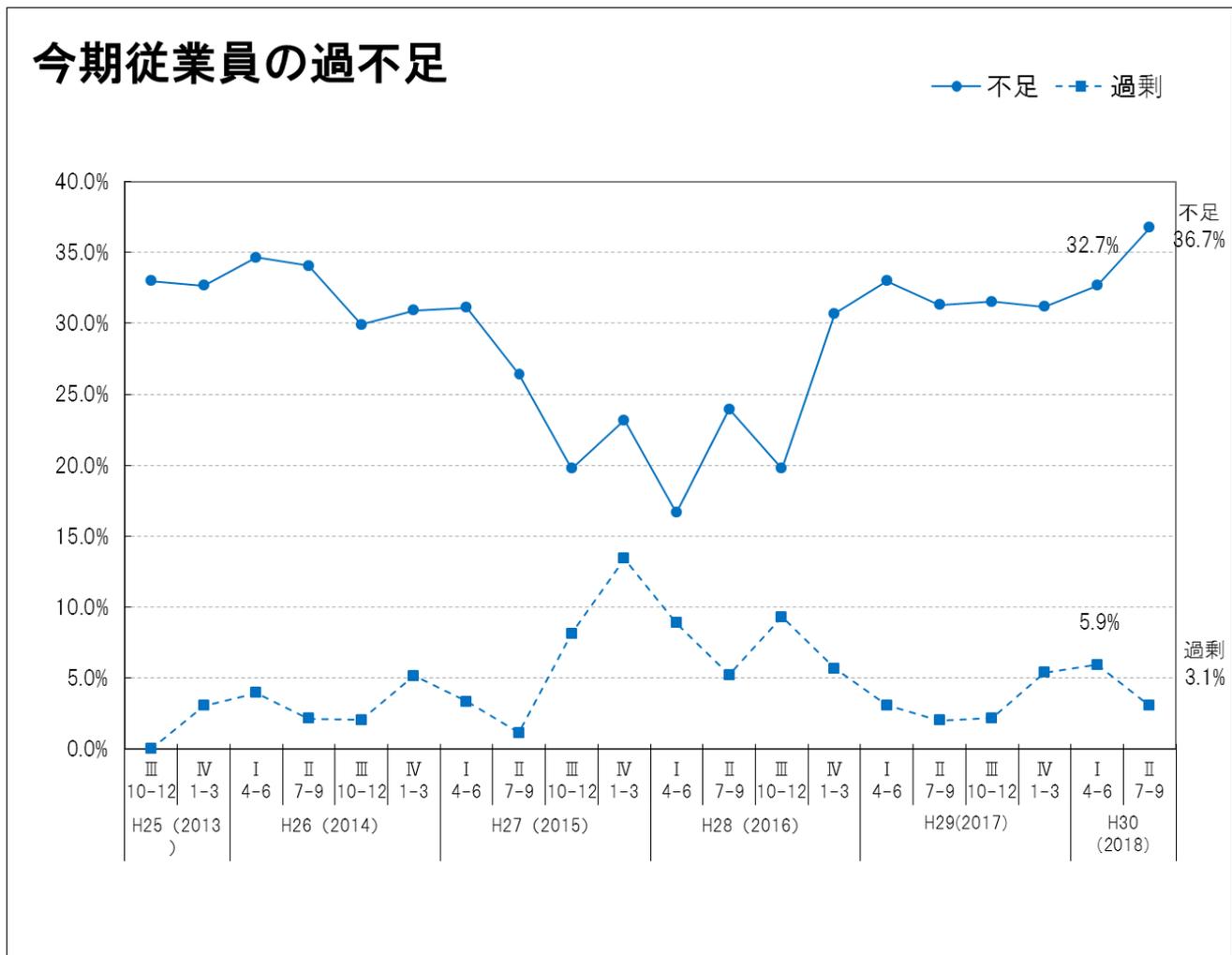
複数回答 単位：件

全業種計	土地	建物・店舗	各種設備	車両・運搬具	付帯施設	OA機器	福利厚生施設	その他	業種計
今期	1(2)	6(5)	11(11)	14(8)	5(7)	8(5)	1(1)	3(4)	49(43)
来期	1(2)	8(4)	6(6)	9(6)	5(4)	6(10)	0(1)	2(3)	37(36)

※カッコ内数字は前回調査(平成30年4-6月)分。各種設備は生産設備、販売設備、サービス設備、倉庫設備等

## 3-2. 今期従業員の過不足

- 不足は前期 32.7%から今期 36.7%に増加
- 過剰は前期 5.9%から今期 3.1%に減少



### ※今期従業員の過不足 業種別内訳

業種	有効回答事業所数	過剰		不足	
		件数	割合	件数	割合
製造業	21	2	9.5%	8	38.1%
建設業	13	0	0.0%	6	46.2%
卸売業	16	0	0.0%	5	31.3%
小売業	24	1	4.2%	6	25.0%
サービス業	24	0	0.0%	11	45.8%
合計	98	3	3.1%	36	36.7%

### 3-3. 直面している経営上の問題点(今期・前期)

#### 【上位課題】

#### 需要の停滞

需要の停滞は、全ての業種で顕著な問題となっている。小売業、サービス業では「ニーズの変化への対応」も深刻な課題となっている。

#### 経費の増加

全ての業種で経費の増加要因となる課題（原材料価格の上昇、仕入単価の上昇、販売単価の低下・上昇難、従業員の確保難）が上位課題となっており、経営環境の厳しさが窺われる。また、小売業において、店舗の狭隘・老朽化も大きな課題となっている。

#### 従業員の確保難

依然として従業員の確保難が深刻な課題となっている。

※上位3つまでを記載

業種	第Ⅱ期 (平成30年7-9月)			第Ⅰ期 (平成30年4-6月)	
製造業	→	1位	原材料価格の上昇	1位	原材料価格の上昇
	↗	2位	従業員の確保難	2位	需要の停滞
	↘	3位	需要の停滞	3位	従業員の確保難
建設業	→	1位	官公需要の停滞	1位	官公需要の停滞
	→	2位	民間需要の停滞	2位	民間需要の停滞
	→	3位	従業員の確保難	3位	従業員の確保難
卸売業	↗	1位	需要の停滞	1位	販売単価の低下・上昇難
	↘	2位	販売単価の低下・上昇難	2位	需要の停滞
	↑	3位	仕入単価の上昇	3位	従業員の確保難
小売業	→	1位	需要の停滞	1位	需要の停滞
	↑	1位	店舗の狭隘・老朽化		
	→	2位	消費者ニーズの変化への対応	2位	消費者ニーズの変化への対応
	→	3位	従業員の確保難	3位	従業員の確保難
サービス業	↑	1位	需要の停滞	1位	利用者ニーズの変化への対応
	→	2位	従業員の確保難	2位	従業員の確保難
	↓	3位	利用者ニーズの変化への対応	3位	需要の停滞

凡例…前期と比べて ↑: 上昇 ↓: 下降 →: 変動無 ↗: やや上昇 ↘: やや下降

## 3-4. 業界の動向に関する各社の主なコメント

### 製造業

- ① 業況は受注量が多く安定していると思われる。
- ② 大手客先からの受注が多く、当社でも今後受注増が見込まれる。
- ③ 設備需要は内外ともに小さくなって来ていると思う。製品開発を進め、市場をつくる必要があると思う。
- ④ 復興需要の反動か、経費支出抑制の動き（広告等）がみられ印刷需要も低迷している。
- ⑤ 原油価格の上昇および災害・天候不順による原料不足が懸念される。

### 建設業

- ① 除染終了し工事量減少。生存競争激化。

### 卸売業

- ① 人手不足が続いている。10月に最低賃金の改定が予定されているが、売上の急な拡大はないため、人件費が利益を圧迫する。
- ② 営業職の確保に苦労している。
- ③ 昨年が特に天候不順・低温による販売不振がひどかったため、比べれば好転だが業況はよくない。更に台風・地震による産地被害でこれからどうなるかわからない。
- ④ お客様の商品購入方法が多様化して苦慮している。運賃の高騰も心配。

### 小売業

- ① ニーズの変化に対する対応。

### サービス業

- ① 昨年より団体の集客が少ない。
- ② 福島市への旅行客の減少が止まらない。
- ③ 人材不足。